

ヴァイオリンについて

大迫淳英は2種類の楽器を使い分けています。

- ① ヴァイオリン：ホール、屋内の施設などで演奏するときに使用します。
- ② 電気ヴァイオリン [野外用]：野外での演奏の時に使用します。



①

Gioffredo Cappa
1644-1717 Saluzzo, Italy
ジョフレッド・カッパ
[1690 年製・イタリア]



弓
PECCATTE, Dominique
1810 - 1874 FRANCE
ドミニク・ペカット
[フランス製]



②

mezzo-forte
Made in Germany
メゾ・フォルテ [ドイツ製]
カーボンファイバー製



弓
Coda Bow, DIAMOND GX
United States America
コーダボウ・カーボン製
[フランス製]

私が使っている楽器は1690年にイタリアで作られた楽器です。335歳の楽器です。

不思議なもので300年経っていないと出ない音があるのです。

しかし全部のヴァイオリンが長持ちするわけではなく、技術の高い製作者が作った楽器で良いものでないと持たないのです。淘汰され、今に残る現役の楽器は「名器」と呼ばれ、高い価値と評価を得ています。

世界の文化財産

先人から335歳の楽器を私も受け継いで今、使っています。この楽器はあと2~300年は生き続けます。この楽器は後世に繋いでゆかないとなりません。私が使い潰してしまうわけには行きません。世界の文化財産であり、私だけのものではないのです。

ヴァイオリンという楽器は

16世紀半ばに突如「完成した姿」でこの世の中に現れました。

すべての楽器（ピアノや二胡など）は数百年かけて進化して完成し現在の状態になっています。

しかしヴァイオリンにその進化の過程が見当たらないのです。神秘に包まれた楽器なのです。

ヴァイオリンは樹齢300~400年の樹を使って作られます。そして伐採された後、時間をかけしっかりと乾燥させて材木となり、ヴァイオリン職人の手によって楽器に生まれ変わります。

私が今使っている楽器は330年たっていますから、森に生命として芽吹いてから、800~1000年ほどの時の流れを経て、今、あなたのところに音が響き届けられるのです。

カーボンヴァイオリン（電気ヴァイオリン・エレクトリックヴァイオリン）

野外用の楽器（カーボン製ヴァイオリン）を使うのは大きく2つの理由があります。

1つは、文化財でもあるヴァイオリンを保護するためです。野外で本物のヴァイオリンを使う事は出来ません。

野外は楽器にとって危険と隣り合わせです。気温（高温、もしくは寒冷）、湿度（高い湿度に弱い）、雨や風（風で何かが飛んできて楽器が壊れる可能性もある）による危険が及ぶ可能性があります。

2つ目の理由は音の大きさです。室内は音が反響します。それにより、効率よく音を響かせる事が出来ます。

しかし野外は音を反射させる壁がありません。そのため、スピーカーに接続して大きな音を出す必要があります。スピーカーに接続できるエレクトリックヴァイオリンを使用しています。